

## 平成20年度宮古入域観光客統計概況

平成21年5月20日(水)

宮古島市経済部

### 1. 概要

景気低迷による不況の影響を受けるなかで、平成20年度の宮古における入域観光客数は、375,440人(対前年比0.8%増)と前年より2,810人と増加傾向にある。沖縄県商工観光部の発表によると、平成20年度の県内入域観光客数は、593万人を記録し過去最高を更新したものの、世界的な景気悪化の影響による旅行市場全体の冷え込みや航空会社の提供座席数が減少していることに伴い、11月以降は5ヶ月連続で前年同月実績を下回ったことから、平成20年度のビジットおきなわ計画の目標620万人には届かなかった。

### 2. 期間別動向

平成20年度上半期【入域観光客数 前年比104.2% (7,868人増)】

八重干瀬まつり、全日本トライアスロン宮古島大会、高校総体(バレー)等のスポーツイベント又、ロックフェスティバル等のミュージックイベントの開催、また燃料高騰などを理由に休止していた大型豪華客船就航が3年ぶりに再開され6月に新下崎ふ頭に接岸第1号となり8月、10月と3回(乗客実績4,276人)寄港するなど、上半期においては、台湾等からのクルーズ船による海路客の増加などによる国外客も順調に推移したことから前年比を上回っている。

平成20年度下半期【入域観光客数 前年比97.3% (5,058人減)】

10月までは、大型豪華客船寄港、農家民泊第一陣(317人大阪から修学旅行生)が来島などと順調に推移していたが、11月以降は、景気悪化などの影響を受け会社の出張、招待・報奨旅行に加え、個人旅行も減少したとみられ、2月は昨年あった3連休が今年はないこと、昨年より一日すくないことなどにより前年同実績を下回っているとみられる。

### 3. 宿泊施設の稼働率

主要ホテル宿泊稼働率 67.1%(前年比0.1ポイント)

月別においては、8月の93.0%が最も高く、次いで7月の84.5%となっている。逆に最も低いには、1月の53.7%で次いで11月の53.8%である。

### 4. 宮古における観光関連消費額【19,210,416千円(107,468千円)】

宮古観光協会が平成16年度調査により推計した、国内観光客1人当たりの平均消費額(51,842円)をもとに算出。

一人あたりの消費額に国内観光客数を乗算して推計しており、台湾クルーズ船による外国人観光客は含んでいない。

## 5. 今後の見通し

国内客については、引き続き景気悪化の影響を受けるとみられることや、新型インフルエンザの流行で学生スポーツ、修学旅行の延期などで観光にも影響を及ぼし、より厳しい状況が続くものとみられる。

外国客については、空路は当面、景気悪化、円高、新型インフルエンザの流行による旅行需要の減少の影響を受けるとみられる。

宮古圏域においては、目標の40万人には届かなかった。今後は、農協観光及び韓国からのゴルフツアーなどのチャーター便（空路客の増加）また滞在体験型観光の促進、体験学習をメニューとした修学旅行、社会人野球のキャンプの実施、各イベント等にもエコアイランド宮古島宣言を全面に押しだした趣旨に賛同するような誘客キャンペーンを官民挙げて実施したい。